

支部の小品展も開催されますので、まだまだ気を抜く訳には参りません。本部はもちろんでしようが、京都支部は事務局の女性の皆様が実に確りと運営して下さり、支部会員一同の協力にも只々感謝でございます。平成二十五年八月二三日記

絵のコンポジション 宮口一良

会報142号に掲載されていた小高氏の美についての記事に感銘しました。私も同じ考えで絵を描いていますので心弾む思いがしました。私は昨年、友人に誘われて新日美にお世話になった新参者です。よろしくお願ひします。別のクラブで、一柳氏と一緒に絵を描いております。古い話で恐縮ですが、戦時中学徒動員で航空機を作る作業をしていたのですがその係長が実は宮大工をしていたそうです。その係長は論理的で普通の大工と違うななというも考えていました。後年、「黄金分割」を知り、法隆寺の五重塔が随所に此の比率を使っているのを見てあの係長の知識の元が分った様な気がしました。

私も常々絵の仲間ギリシャの昔から建物や絵のコンポジションについて、人間の頭で考えたことと自然界の法則が一致していると話してもなかなか理解してくれませんでした。黄金分割については幾何学的な解き方と数学的な方法がありますが、当新日美の前の審査副委員長の大川武一郎氏もその著書「私の絵画論、絵の描き方のヒント」に幾何学的の一つの方法を上げています。

話は飛びますが、第二次世界大戦中に松方幸次郎氏が欧州で集めた多くの絵画、いわゆる「松方コレクション」がサンフランシスコ講和条約により戦勝国フランスの国有財産となつてしまいました。ところが流石、芸術の国フランスだけあつてその粋な計らいで日本に寄贈、返還される事になったのです。但しこれには折角のコレクションを散逸させないため国立の美術館を建てること、一つ目はその美術館の設計、監督をフランスの世界的建築家ルビジエに任せること。

日本も戦後財政的に相当苦しい時でありました。政府の大英断で建設に着手することになったのです。これが上野公園の入ったすぐ右手にある「国立西洋美術館」です。一九五九年に建築が完成しました。私も建築家として見て、素晴らしく、非常に

斬新なものと感じました。しかも、建築全体がコンクリート打ちっぱなしで、当時の業界にはなかった新しい手法だったので、そしてこの方式が爆発的に日本全国に広がっていったのでした。以下紙面の都合で次号に続く

シリーズ 画家伝 大石 亨

芸術と宗教を結びつけた画家ルオー

ジョルジュルオーは一八七一年パリで生まれた。父は唐木細工師でピアノの仕上げが仕事だった。仕事を愛し、仕事の材料を愛する職人だった。職人が持つ手仕事と材料への愛着、ルオーはこれを父から受け継いだ。

ルオーは幼時から絵に親しんでいた。14歳の時、父はルオーをステンドグラスの修繕や製作をする親方の所へ見習工として出した。

中世のステンドグラスの色の美しさは少年ルオーの心に強い印象を与えた。後年ルオーの絵に見られるガラスのような色の輝き、その色を一段と際立たせる太い黒線、これはステンドグラスからの影響によるものである。

ルオーは20歳（一八九八年）になった年、ステンドグラスの職人をやめて美術学校に入學した。ここで師モローと出会う。モローはルオーの個性と才能をいち早く認め、これを愛した。ルオーもまた氏を深く愛し尊敬した。モローとルオーは画風は全く異なるが、ルオーは師から厳格なデッサンとともに現実の背後に在る精神的現実と内的ヴィジョンの把握を学んだ。

一八九八年、モローが死にルオーはただ一人の師を失った。ルオーは孤独と貧困、この世の悲惨と醜悪、人類の汚辱と罪に良心を責めさいなんだ。そしてカトリックの信仰に深くはいつて行った。このころからルオーの描くキリスト、娼婦、道化師、いずれも宗教性を帯びてきた。それは年々、年とともに深められた。そして一九〇三年、32歳の時彼の模索は漸く終わりを告げ、自己の進むべき道を見出した。以後第一次欧州大戦に至るまで彼は恐るべきエネルギーを以て黙々と自己の内的必然性に従いながら娼婦、道化師、裁判官等のモチーフを追求し続けた。

一九二四年、五十三歳の時、ルオーはドリュエ画廊の個展でようやく世間に認められた。彼が絵に専心し始めてから既に30年以上になる。しかもなお彼は前進を続ける。新しい世界、新しい色を求めて数々の傑作を生んだ。そして一九五八年死去。享年八十七歳。

新日美選抜小品展の報告 事業部 河野みち子

九月上旬に開催した小品展には33名の出品者で催すことになりました。出品された方にお礼申し上げます。有難うございました。

出品者が少なく心配しましたが、展示は鈴木忠義氏が中心になり、レイアウトその他ご苦労なさつてくださりそれぞれ個性ある作品を旨く収めてくださいました。

準備途中におきましては、私の至らなから手違いなことが多く、ご迷惑おかけ致しました。始まつてみますと色々な方とお会いする事が出来あつという間に楽しく過ぎてしまいました。

販売することが出来る機会なのでもっと多くの方が積極的に参加をして会場にも足を運ばれてはと思

いました。

それから会期が上野本展と近くせわしない気がします。



会場の都合もあるかと思ひますが春頃に開催されるとよいのではと思ひました。会場に来て下さる方々もフリーの方が少なくもつと賑やかな方法はないものかと考えさせられました。来年度は小林さん、児玉さんが担当をお引き受け下さり感謝いたします。よりよい展示会を期待します。共に今回担当して下さいました陳さんにもお礼申し上げます。来年はもっと多くの参加をお願いします。

京都支部小品展
平成25年12月3日(火)〜8日(日) 西宮市のギャラリー 雛にて チャリティー展を開催します。
埼玉西支部彩り展(支部会員の小品)
平成25年11月7日(木)〜12日(火)・川越市のギャラリーR+にて開催します。



金谷美術館展第1回コンクールで、会員の石原 修氏が優秀賞を受賞しました。

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部 一柳 幸

2013-9-24(火)多摩川台公園

あの灼熱の暑さも去って彼岸ともなれば、どうやら秋らしくなった。多摩川河畔の公園の高台は古墳の遺跡だそう、樹木の涼しげな静かな雰囲気がとてもよい。時々聴こえる蝉の声には一抹の淋しさを感じさせて哀れではあるが、時期はまさに秋である。「多摩の水 野草映せり秋の色」とゆっくりしたスケッチの一日でした。

次回予定

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合中止します。

- 白金プラチナ通り 2013-10-28(月) 都営地下鉄三田線白金台出口10時集合
- 巢鴨とげぬき地蔵 2013-11-25(月) JR巢鴨駅出口10時集合
- 有栖川宮公園 2013-12-9(月) 地下鉄日比谷線広尾駅出口10時集合
- 東大三郎池 2014-1-20(月) 東大赤門前10時集合